

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、令和4年3月の認定基本計画に基づき、「人が輝き、人で輝く、人が主体の賑わいづくり～まちなかりスタート！南北一体化による交流シンカを目指して～」のスローガンのもと、「多様な目的で人が行き交い、交流するまち」、「新たなチャレンジとライフスタイルを楽しむまち」を目指して、交流人口の拡大、まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実に努めてきた。

中心市街地の居住人口の社会増減数については、高岡駅前東地区における分譲マンション等の入居需要が一巡したことに加え、定塚・下関地区のエリア内において子育て世帯の転出が年度末に顕著に見られたため、令和7年は転出超過となった。また、令和6年は、能登半島地震の影響もあり観光客数は落ち込んでいたが、令和7年はインバウンドを中心にした全国的な観光需要の増加を背景に、観光施設の民間委託を実施し柔軟な集客策を実施した効果もあり、中心市街地の主要観光施設における観光入込客数については、前年比増となった。一方で、これまで高岡市は、能登地域を含めた広域団体観光の拠点という性質が強く、コロナ禍による団体旅行から個人旅行へのシフト、能登半島地震による影響から、コロナ禍前の観光客数に至っていない。

起業・創業件数においては、令和7年度において20件となり2年連続の増加となった。特徴的な点として、これまで新規開業の少なかった高の宮通りなどのエリアでの出店が生まれてきたことや、同一企業による中心市街地での複数出店が進んだことが挙げられる。これらの店舗はInstagramを中心としたSNS広報を積極的に用い、従来の主要客層（高齢者）に加え、若年層の集客に成功している。

この背景には、従来の補助金による直接的な開業支援に加え、TASU（高岡まちなかスタートアップ支援施設）によるスモールビジネスの伴走支援が着実に成果を上げていることが挙げられる。TASUによる支援は市内・市外全域を対象としているが、実際の起業案件の約半数が中心市街地内に集積しており、中心市街地が起業の受け皿として機能していることが伺える。

本計画期間においては、TASUによる個別相談から、御旅屋人マーケットを活用したテストマーケティング、さらには開業支援補助金による初期投資軽減へと至る「起業支援のパッケージ化」を図った。これにより、直接的な出店支援に留まらず、起業を志す者同士が緩やかに繋がり、互いに切磋琢磨するコミュニティ形成にも寄与している。

今後も、これらソフト・ハード両面の施策を重層的に展開することで、意欲ある人材の呼び込みと定着を促進し、中心商店街の商業機能の更新と持続的な活性化を図る。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度3月31日)

(中心市街地域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (最終年度)
人口	13,702人	13,361人	13,179人	13,082人	12,803人	
人口増減数	△216人	△341人	△182人	△97人	△279人	
自然増減数	△185人	△249人	△240人	△229人	△190人	
社会増減数	△31人	△92人	58人	132人	△89人	
転入者数	654人	541人	648人	699人	558人	

(2) 地価の状況

(単位：円/㎡)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (最終年度)
中心市街地 商業地域						
宮脇町吉田 1003-1 外	90,000	87,700	86,800	86,200	85,500	
丸の内65-1	77,300	76,300	75,500	74,900	74,300	
守山町17-1 外	57,100	56,500	56,200	55,900	55,600	
新横町1044- 1 外	83,800	81,600	80,400	79,500	78,900	
駅南1-830-7	70,200	69,200	68,900	68,800	68,800	
中心市街地 住宅地域						
大町217-2 ※	26,700	26,300	26,000	25,700	25,300	
金屋町109-2	33,100	33,000	33,000	33,000	33,000	

※令和5年「袋町(旧大町)91 外」から選定替え

出典：国土交通省地価公示

2. 令和7年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

認定中心市街地活性化基本計画に位置付けられた事業や計画については、関係者が連携を密にし、着実に進行していると評価している。中心市街地における新規開業件数は累計69件に達し、当初の目標を1年早く達成するなど明るい兆しも出てきており、歩行者・自転車通行量調査の結果についても、毎年、増加傾向にあることから、中心市街地で行われている事業が着実に結果として現れている。

当協議会としても、引き続き行政を始めとする関係者と連携・協力しながら、必要に応じた支援等を行っていききたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
交流人口の拡大	主要観光施設における観光入込客数	351,000 人 (R1)	375,500 人 (R8)	319,422 人 (R7)	C	A	B
	中心商店街・観光地周辺(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値	14,425 人 (R1)	15,000 人 (R8)	18,409 人 (R7)	A	A	A
まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実	中心市街地における居住人口の社会増減数	△50 人／年 (H29～R2)	±0 人／年 (R4～R8)	2人／年 (R4～R7)	A	A	A
	中心市街地・観光地周辺における新規開業件数	57 件 (H29～R2)	60 件 (R4～R8) (12 件／年)	69 件 (R4～R7) (17 件／年)	A	A	A

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

A : 目標達成が見込まれる (関連する事業の進捗状況が順調)

a : 目標達成が見込まれる (関連する事業の進捗状況が順調でない)

B : 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる (関連する事業の進捗状況が順調)

b : 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる (関連する事業の進捗状況が順調でない)

C : 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない (関連する事業の進捗状況が順調)

c : 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない (関連する事業の進捗状況が順調でない)

2. 目標達成見通しの理由

「観光入込客数」について、令和 7 年の実績は 319,422 人となり、能登半島地震の影響を受けた前年から約 20.8% (54,964 人) 増と回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には至っていない。高岡市はこれまで、バスツアーを主軸にする能登地域を含めた広域的な団体旅行をメインターゲットに、各種制度を実施してきたが、コロナ禍で旅行形態が団体から個人へシフトしたこと、和倉温泉を始めとした能登地域の観光需要が減ったことが原因であると推察する。そのため、個人パック旅行の充実を図るとともに、特定の地域要因に左右されない、高岡の観光施設の「目的地」としての価値を高めるため、部局横断的な WG を組織し、各観光施設の魅力を高める磨き上げの検討を行っていく。

「歩行者・自転車通行量」については、御旅屋人マーケットをはじめとしたイベントの定着や、若手起業家による飲食店やオフィスなどの新たな拠点が生まれたことにより、平日・休日ともに前年度から増加し、目標値である 15,000 人を上回っている。概ね全地点において、平日・休日ともに増加傾向であり、今後は、異なる地点における複数のイベント間で相互に連携を図り、来街者に周遊性を持たせるような仕掛けを行うことで、更なる通行量の増加が期待でき、計画最終年においても目標達成は可能と見込んでいる。

「居住人口の社会増減数」については、令和 5 年度及び令和 6 年度は社会増を達成していたが、定塚・下関地区のエリア内において子育て世帯の転出が年度末に顕著に見られたため、令和 7 年度は再び社会減となっている。一方で、第 4 期計画期間全体の平均では 1 年あたり 2 人の社会増を維持しており、基準年（1 年あたり 50 人の社会減）と比較して大幅な改善傾向にある。一時的なマンション供給による人口増に留まらず、中心市街地での住宅取得やリフォーム等への支援を通じ、転入促進と共に定住化対策を進め、たかおか暮らし支援事業や賑わい集積開業等支援事業を始めとした空き家活用事業を着実に実施し、目標達成を目指す。

「新規開業件数」については、令和 7 年度は 20 件の実績であり、目標としている年間 12 件の開業を上回り、既に最終目標値である 60 件を達成している。この背景には、起業希望者が TASU に相談し、事業計画の作成等の伴走支援を受けながら各種補助制度を活用し、中心市街地での開業に繋げる流れが根付いてきている。また、御旅屋人マーケットや TASU からの開業も着実に進んでおり、更に令和 6 年度に創設した遊休不動産のリノベーションを後押しする補助金の活用事例も出てきた。引き続きこれらの事業を相乗的に連携・展開して中心市街地の賑わい創出につなげていく。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

○観光客入込客数について

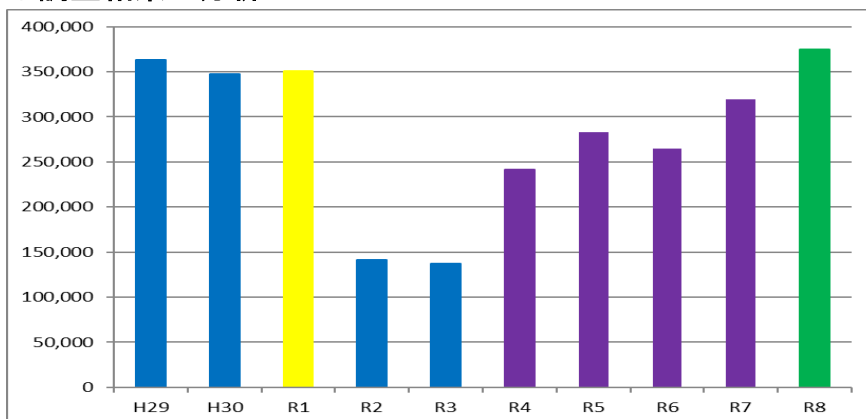
前回フォローアップでは、令和 6 年能登半島地震による観光客の落ち込みからの回復を見越し、前々回と同じく、目標達成が見込める (A) としていた。令和 7 年度において、震災後初めて観光入込客数を通年で出すことができ、前年比約 20.8% 増と回復傾向にあるものの、いまだ能登地域の観光需要が回復しきっていないこと、また旅行形態が団体から個人へシフトしたことから、目標達成が見込まれない (B) と評価した。対策として、個人パック旅行の充実を図るとともに、特定の地域要因に左右されない、高岡の観光施設の「目的地」としての価値を高めるため、部局横断的な WG を組織し、各観光施設の魅力を高める磨き上げの検討を行っていく。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「主要観光施設における観光入込客数」

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 72～P. 75 参照

●調査結果と分析



年	(単位) 人
R1	351,000 (基準年値)
R4	241,687
R5	282,656
R6	264,458
R7	319,422
R8	375,500 (目標値)

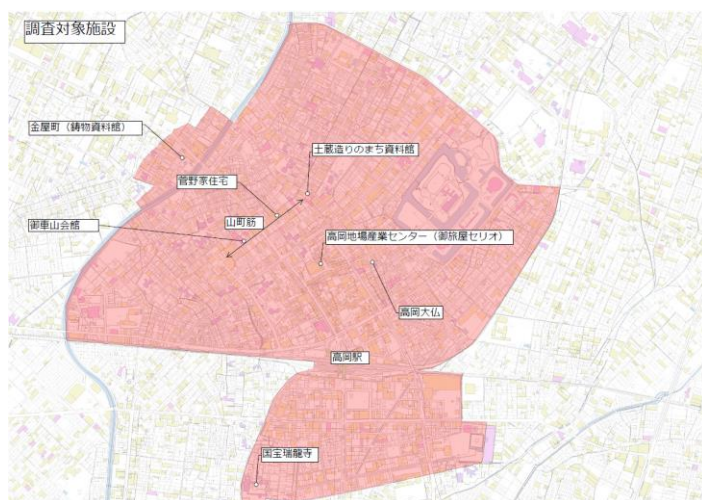
※調査方法： 4半期ごとに施設毎の入込数を集計

※調査月： 4半期ごと（3月、6月、9月、12月）

※調査主体： 高岡市

※調査対象： 瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家・土蔵造りのまち資料館・御車山会館）
金屋町（鋳物資料館）、高岡地場産業センター（令和3年度より計上）

調査地点図



	令和元年 (計画前年度)	令和4年 (1年目)	令和5年 (2年目)	令和6年 (3年目)	令和7年 (4年目)	令和8年 (5年目)
瑞龍寺	196,785	94,904	116,493	107,576	141,712	
高岡大仏	92,000	83,000	91,040	91,350	106,925	
菅野家	2,584	—	—	—	—	
土蔵造りのまち 資料館	4,018	2,545	2,503	3,590	3,676	
高岡御車山会館	49,098	31,461	37,132	30,479	34,525	
鋳物資料館	6,621	4,137	3,913	4,153	4,424	

高岡地域地場産業センター	-	25,640	31,575	27,310	28,160	
合計	351,106	241,687	282,656	264,458	319,422	

（参考指標）

	令和元年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
市内宿泊者数	308,723人	214,246人	224,853人	323,375人	280,006人	
市内外国人宿泊者数	11,394人	2,412人	6,248人	9,369人	10,333人	

※高岡市独自調査によるもの

〈分析内容〉

主要観光施設における観光入込客数は、令和6年能登半島地震による落ち込みから着実に回復傾向にある。特に、瑞龍寺は昨年度比32%と大きく増加しており、年2回開催しているライトアップイベントなどが観光客数の増加に寄与していると考えられる。

また、高岡大仏や高岡御車山会館についても、昨年度比13%以上の観光客を入れ込んでおり、特に対象のスケールが大きな施設の観光客の増加が目立つ。一方、参考指標である市内宿泊者数については、昨年比減少しているため、高岡を拠点とした周遊性のある観光施策を進めていく必要がある。市内外国人宿泊者数は、年々増加しており、インバウンドの効果が如実に反映されている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 高岡地域地場産業センターの移転による増加

○高岡地域地場産業センター運営事業（（公財）高岡地域地場産業センター）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
実施主体	（公財）高岡地域地場産業センター
事業概要	昭和58年に設立した公益財団法人高岡地域地場産業センターは、令和2年10月に中心市街地にある御旅屋セリオへ移転し、まちなかから富山県西部地域の伝統産業の振興拠点施設として円滑な運営を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	（高岡地域地場産業センターの移転による増加） 事業目標値：+20,000人 最新値：+28,160人（R1：0、R7：28,160人利用） 達成状況：達成 令和4年度以降全ての年度において、目標値である20,000人以上の観光客数を入れ込んでいる。
事業の今後について	敦賀開業による観光需要や鋳物制作体験による教育需要も取り込みながら、引き続き利用者の増加に努めていく。

イ. 北陸新幹線の敦賀開業による効果

○呉西観光誘客推進事業（富山県西部地区観光協議会）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 7 年度【済】
実施主体	富山県西部地区観光協議会
事業概要	令和 3 年 2 月に改訂した「第 2 期とやま呉西圏域都市圏ビジョン」に基づき、圏域の多彩な観光資源（自然・文化・産業遺産等）の連携によるマーケティング・ブランディングにより、圏域の観光エリアの PR 強化・充実に努め、観光誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	（北陸新幹線の敦賀開業による効果） 事業目標値：＋3,500 人 最新値：＋4,500 人（新高岡駅の人流伸び率から算出） 達成状況：達成 敦賀までの延伸開業が令和 6 年 3 月であるため、令和 6 年度を最新値としており、目標値を大幅に越えている。
事業の今後について	敦賀開業を契機とした本市への観光客誘致へとつなげるため、圏域内の観光 PR の強化・充実に努める。

ウ. 賑わい集積開業等支援事業による波及効果

○賑わい集積開業等支援事業（高岡市）

事業実施期間	令和 3 年度～【実施中】
実施主体	高岡市
事業概要	商店街や観光地など指定区域において、空き店舗で新規開業する方を対象に、店舗改装費や家賃等に対し支援 旧来の 4 つの開業支援制度を一本化し、効率的、効果的な制度運用を図る。 ・ 中心市街地賑わい創出開業等支援事業（中心市街地） ・ 観光地魅力アップ開業等支援事業（観光地周辺） ・ 空き店舗における開業等支援事業（周辺商店街） ・ 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和 2 年度～令和 4 年度） 中心市街地活性化ソフト事業（令和 5 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（賑わい集積開業等支援事業による波及効果） 事業目標値：＋1,000 人（A×B） A：令和 4～8 年度観光地における開業店舗予定数 10 店舗 B：新規開業店舗からの観光施設への来館者数 100 人/年 最新値：＋1,000 人 達成状況：達成 令和 4 年度～令和 8 年度で目標 10 店舗開業のところ、令和 7 年度までに山町筋エリアで 4 件、金屋町エリアで 2 件、坂下町エリアで

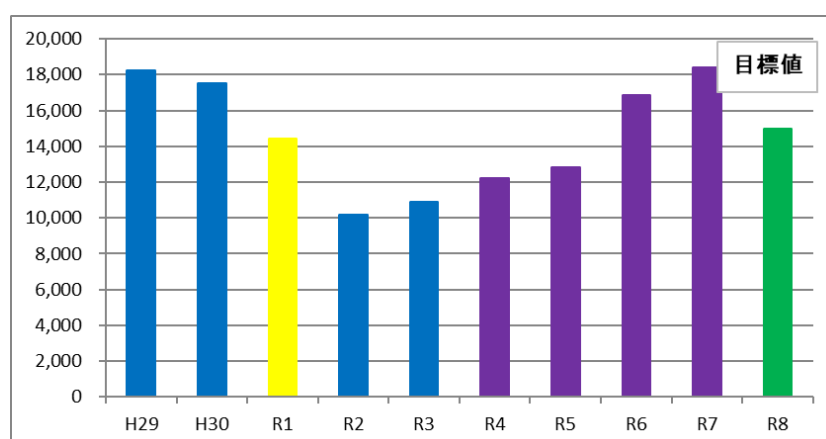
	1 件、駅南エリアで3 件であり、飲食・カフェが5 件、物販が3 件、美容関係が1 件、宿泊施設が1 件といった出店があり、事業目標を達成した。
事業の今後について	引き続き制度の周知や関連団体との連携を行うことで開業支援の活用を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和7 年においては、令和6 年の能登半島地震で落ち込んだ観光需要が回復してきており、対前年比増となっているものの、コロナ前の水準には至っていない状況であるため、最終目標の達成に向けて、前年以上の観光客の入込が必要となる。今後は、個人旅行層のニーズに応える体験型コンテンツの充実や効果的な情報発信に加え、特定の地域要因に左右されない、高岡の観光施設の「目的地」としての価値を高めるため、部局横断的なWG を組織し、各観光施設の魅力を高める磨き上げの検討を行っていく。

（２）中心商店街・観光地周辺（６地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 75～P. 81 参照



年度	(単位) 人
R1	14,425 (基準年値)
R4	12,217
R5	12,845
R6	16,880
R7	18,409
R8	15,000 (目標値)

■ 第3期認定後 ■ 基準年値 ■ 第4期認定後 ■ 目標値

※調査方法：毎年10月の平日1日及び休日1日に下記6地点において、歩行者・自転車通行者を計測する。調査時間は9～19時とする。

※調査月：10月

※調査主体：高岡市

※調査対象：中心商店街・観光地周辺6地点（高岡駅前（人工デッキ）、末広町（西）、末広町（東）、御旅屋通り、大仏前、山町筋（木舟町））

【歩行者・自転車通行量6調査地点】



- ① 高岡駅前（人工デッキ）
- ② 末広町（西）
- ③ 末広町（東）
- ④ 御旅屋通り
- ⑤ 大仏前
- ⑥ 山町筋（木舟町）

		令和元年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
高岡駅前	平日	10,146	5,334	9,729	9,717	10,479	
	休日	7,623	5,620	7,139	10,699	11,143	
末広町（東）	平日	761	918	746	890	836	
	休日	796	862	656	910	1,188	
末広町（西）	平日	1,197	1,238	790	1,111	1,173	
	休日	1,186	1,024	714	1,637	2,118	
御旅屋通り	平日	891	1,002	868	1,263	1,229	
	休日	1,131	3,108	1,368	3,149	4,515	
大仏前	平日	1,542	1,676	794	1,409	1,172	
	休日	2,685	2,663	2,248	1,838	2,029	
山町筋（木舟町）	平日	404	452	302	334	412	
	休日	487	536	335	803	523	
6地点合計	平日	14,941	10,620	13,229	14,724	15,301	
	休日	13,908	13,813	12,460	19,036	21,516	
平均		14,425	12,217	12,845	16,880	18,409	

（参考指標）御旅屋セリオ来館者数の平均（人／日）

令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1,157	637	708	753	751	

※オタヤ開発(株)より情報提供

〈分析内容〉

百貨店撤退やコロナ禍による外出機会の縮小から回復傾向である。昨年度比でも特に休日を中心に増加となり、御旅屋通りで開催している御旅屋人マーケットを中心とした中心市街地でのイベント連携や高の宮通りを始めとした店舗開業による効果が現れてきていると言える。また、令和7年4月より開始した「市営御旅屋駐車場の昼間2時間無料

化」の社会実験により、これまで駐車料金を理由に利用を控えていた層の来街を促進し、駐車台数が令和6年度比21,992台増加したことも、御旅屋通り、大仏前等の地点における通行量増加の大きな寄与要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 高岡駅前東地区整備事業の居住者の周遊

○高岡駅前東地区整備事業（高岡市、高岡駅前東地区協議会、権利関係者）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
実施主体	高岡市、高岡駅前東地区まちづくり協議会、権利関係者
事業概要	地権者と共に実現化に向けた計画の策定や民間事業の開発支援（業務施設、マンション等）、周辺環境の整備（道路、広場等）を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（高岡駅前東地区整備事業の居住者の周遊による増加） 事業目標値：＋150人／日 最新値：＋150人／日 達成状況：達成 分譲マンションの入居が進み、居住者の増及びそれに伴う周遊の増が進んでいる。
事業の今後について	分譲マンションへの入居が完了したため、今後はマンション居住者によるまちなかへの流動が図られるよう取り組んでいく。

イ. セリオタウン推進事業による増加

各事業まとめ

事業	目標利用者数	実績数
高岡地域地場産業センター運営事業	60人/日	77人/日
マルチスペースの利用	20人/日	41人/日
オタヤ子ども広場運営事業	90人/日	164人/日
レストランやテナント誘致	30人/日	-
合計	200人/日	282人/日

○高岡地域地場産業センター運営事業【再掲】（（公財）高岡地域地場産業センター）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
実施主体	（公財）高岡地域地場産業センター
事業概要	昭和58年に設立した公益財団法人高岡地域地場産業センターは、令和2年10月に中心市街地にある御旅屋セリオへ移転し、まちなかから富山県西部地域の伝統産業の振興拠点施設として円滑な運営を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び進捗状況	（高岡地域地場産業センターの移転による増加） 事業目標値：＋60 人/日 最新値：＋77 人/日（R7：28,160 人利用） 達成状況：達成 令和 4 年度以降全ての年度において、目標値である 20,000 人以上の観光客数を入れ込んでいる。
事業の今後について	敦賀開業による観光需要や鋳物制作体験による教育需要も取り込みながら、引き続き利用者の増加に努めていく。

○マルチスペースの利用

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
実施主体	高岡市
事業概要	御旅屋セリオに新たなテナント誘致に努め、整備した施設を有効活用し、イベントなどを実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	（セリオタウン推進事業による増加） 事業目標値：＋20 人/日 最新値：41 人/日（R7：15,060 人利用） 達成状況：達成 各種団体の打合せの場、講習会や研修会といった用途でマルチスペースの利用実績があり、目標値である 20 人/日を大きく上回った。
事業の今後について	マルチスペースとして整備し、貸し出す施設については、SNS や HP 等による周知を広く行う。

○オタヤ子ども広場運営事業（オタヤ子ども広場実行委員会）

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
実施主体	オタヤ子ども広場実行委員会
事業概要	御旅屋セリオ内にある子ども広場の運営を行い、様々な企画・イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	（セリオタウン推進事業による増加） 事業目標値：＋90 人/日 最新値：164 人/日 達成状況：達成 R7.4 より、子ども広場の一面に、廃校舎の跳び箱やマットなどを移設し、運動スペースを設けたことや市営御旅屋駐車場の 2 時間無料事業により、目標値 90 人/日を大幅に上回る利用実績があった。
事業の今後について	子育て世代にとって魅力的なイベントの実施などにより、更なる施

いて	設利用者の増を目指す。
----	-------------

ウ. リノベーションまちづくり事業による増加

○リノベーションまちづくり事業（高岡市、中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
実施主体	高岡市、中心市街地活性化協議会
事業概要	「御旅屋人マーケット」を始めとした、新しい使い方による「街のコンテンツ」を生み出すことにより、来街機会と賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和 2 年度～令和 4 年度） 中心市街地活性化ソフト事業（令和 5 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（リノベーションまちづくり事業による増加） 事業目標値：＋150 人／日 最新値：＋60 人／日 達成状況：未達成 令和 7 年度までに山町筋エリアで 1 店、高の宮通りで 1 店と御旅屋人マーケットの出店者による中心市街地エリアでの開業成果があった。
事業の今後について	引き続き、商店街での定期的なマーケット開催により、中心商店街での回遊の促進、更には出店者や客が実店舗開業とその顧客となるよう誘導する。

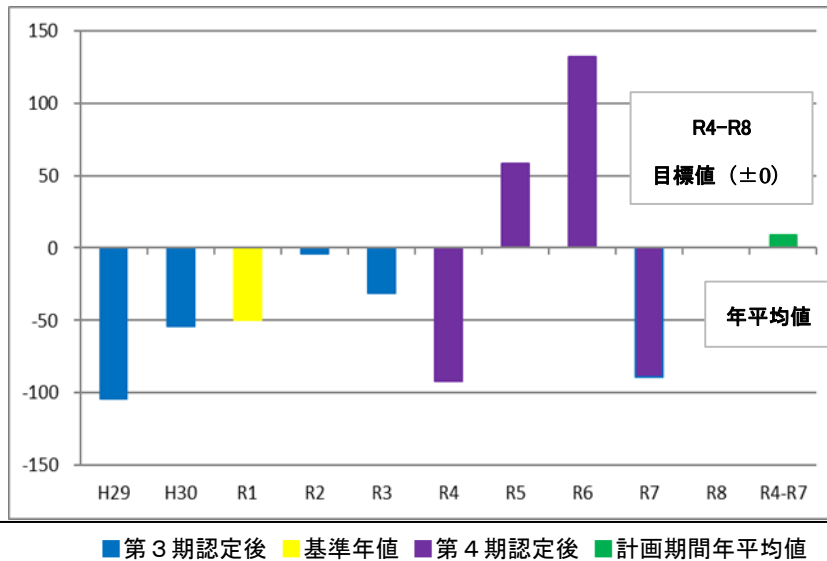
●目標達成の見通し及び今後の対策

前年度比で平日・休日ともに増加に転じ、計画期間中のトレンドも上昇基調にあることから、目標達成は可能と見込まれる。特に休日は、中心市街地における複数イベントの連携が奏功し、高い水準を維持している。

今後は、異なる地点における複数のイベント間で相互に連携を図り、来街者に中心市街地の各所を訪れていただけるよう、区域内に周遊性を持たせるような仕掛けを行うことで、この増加傾向を一時的なものに留めず、日常的な賑わいとして定着させるため「歩きたくなる・滞在したくなる」施策を継続していく必要がある。

(3) 中心市街地における居住人口の社会増減数

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 81～P. 84 参照



年度	(単位) 人
H29- R2	△50／年 (基準年値)
R4	△92
R5	58
R6	132
R7	△89
R4- R8	±0 (目標値)
R4-R7	2／年 (最新値)

※調査方法：3月31日時点の地区別居住人口を住民基本台帳より集計し昨年度と比較

※調査月：3月31日

※調査主体：高岡市

※調査対象：認定区域内に居住する人

(参考指標)

	令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
市内全体の 転入者数	4,685人	4,894人	4,786人	5,046人	4,716人	
市内全体の 転出者数	5,149人	4,815人	4,899人	4,498人	4,847人	
市内全体の 社会増減	▲464人	79人	▲113人	548人	▲131人	
エリア内の 定塚地区人口	3,930人	3,964人	3,933人	3,938人	3,846人	
定塚地区の 社会増減数	113人	9人	41人	78人	▲45人	

〈分析内容〉

統計開始(H28年)以降初の社会増を記録した令和5年度及び継続して増加した令和6年度に対し、令和7年度は社会減へと転じた。これは、令和2年度より推進してきた「高岡駅前東地区整備事業」に伴う新築マンションへの入居需要が一巡したことに加え、定塚・下関地区のエリア内において子育て世帯の転出が年度末に顕著に見られたことが主な要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. たかおか暮らし支援事業による増加

○たかおか暮らし支援事業（高岡市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
実施主体	高岡市
事業概要	高岡市が指定した「まちなか区域」及び「居住誘導区域（UIJ 世帯または子育て世帯）」において、家屋の新築や、新築（建売）・中古住宅の取得、新築・中古分譲マンションの取得、隣接土地の取得、隣接土地上の空き家等の除却、耐震改修に伴うリフォーム、三世代同居のためのリフォーム、エコリフォームを行う者に対し、費用の一部を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（地域住宅政策推進事業））（国土交通省）（令和３年度～令和７年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（たかおか暮らし支援事業による増加） 事業目標値：＋75 人 最新値：＋124 人（R4～R7:69 件から算出） 達成状況：達成 令和４～７年度で 69 件の実績があり、まちなか居住人口の増に寄与している。
事業の今後について	支援制度の周知に努めることで「まちなか区域」への居住支援を継続し、居住人口の維持・増加へと繋げていく。

イ. 高岡駅前東地区整備事業による増加

○高岡駅前東地区整備事業【再掲】（高岡市、高岡駅前東地区協議会、権利関係者）

事業実施期間	令和２年度～令和５年度【済】
実施主体	高岡市、高岡駅前東地区まちづくり協議会、権利関係者
事業概要	地権者と共に実現化に向けた計画の策定や民間事業の開発支援（業務施設、マンション等）、周辺環境の整備（道路、広場等）を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和２年度～令和５年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（高岡駅前東地区整備事業による増加） 事業目標値：＋158 人／日 最新値：＋158 人／日 達成状況：達成 分譲マンションの入居が進み、居住者の増及びそれに伴う周遊の増が進んでいる。
事業の今後について	分譲マンションへの入居が完了したため、今後はマンション居住者によるまちなかへの流動が図られるよう取り組んでいく。

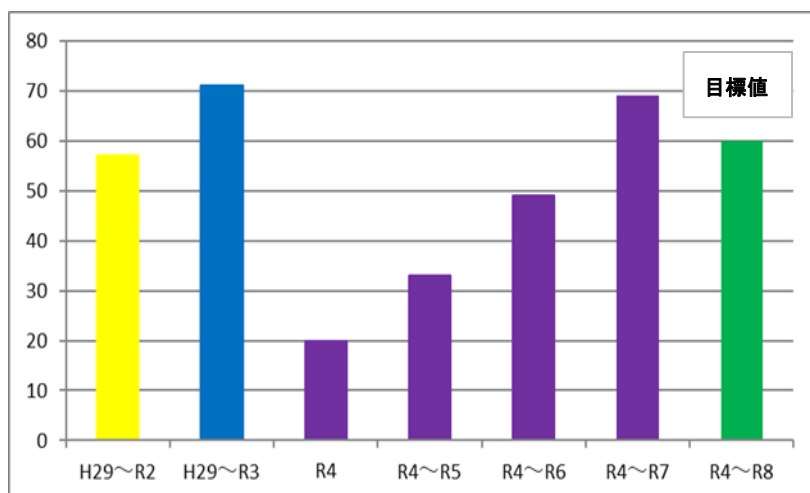
●目標達成の見通し及び今後の対策

統計開始（H28 年）以降初の社会増を記録した令和５年度、および継続して増加した令和６年度に対し、令和７年度は社会減へと転じた。一方で、第４期計画期間全体の平均で

は2人の社会増を維持しており、基準年（50人の転出超過）と比較して大幅な改善傾向にある。引き続き、たかおか暮らし支援事業や賑わい集積開業等支援事業を始めとした空き家活用事業による中心市街地での中古住居の取得、改修に係る支援を通じ、転入促進と共に定住化対策を進め、計画期間最終年度における目標達成を目指す。

（４）中心市街地・観光地周辺における新規開業件数

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 84～P. 87 参照



年	(単位) 件
H29-	57
R2	(基準年値)
R4	20
R4-	33
R5	
R4-	49
R6	
R4-	69
R7	
R4-	60
R8	(目標値)

■ 第3期認定後 ■ 基準年値 ■ 第4期認定後 ■ 目標値

※調査方法：市の開業支援制度を活用して開業した店舗と空き店舗調査の結果を基に、職員による現地調査を行う。

※調査月：通年で確認

※調査主体：高岡市

※調査対象：認定区域内における新規開業店舗

（参考指標）

	令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
店舗数	99 件	100 件	98 件	97 件	91 件	
空き店舗件数	28 件	23 件	25 件	27 件	31 件	
うち利用可能な 空き店舗件数	14 件	10 件	7 件	6 件	6 件	

※母数となる店舗数は、調査方法に基づく商店街の店舗数（住宅などは除く）

※利用可能な空き店舗件数は、調査方法に基づく賃貸意志が明確にある物件数

出典：末広開発(株)令和7年度空き家空き店舗調査

〈分析内容〉

令和7年度における新規開業件数は20件であり、目標としている年間12件を大きく上回っている。コロナ禍からの回復で飲食・観光関連の業種を中心に新規開業が増加傾向にある。

向にあることや、TASU を始めとした関係機関の支援が、開業の促進につながっていると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 開業支援事業による効果

○賑わい集積開業等支援事業【再掲】（高岡市）

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
実施主体	高岡市
事業概要	商店街や観光地など指定区域において、空き店舗で新規開業する方等を対象に、店舗改装費や家賃等に対し支援 旧来の4つの開業支援制度を一本化し、効率的、効果的な制度運用を図る。 ・ 中心市街地賑わい創出開業等支援事業（中心市街地） ・ 観光地魅力アップ開業等支援事業（観光地周辺） ・ 空き店舗における開業等支援事業（周辺商店街） ・ 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和4年度） 中心市街地活性化ソフト事業（令和5年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（開業支援事業による効果） 事業目標値：55件 最新値：69件（R4:20件、R5:13件、R6:16件、R7:20件） 達成状況：達成 目標値55件に対し、計画途中の令和7年度に69件となり、目標値を上回った。令和7年度は、桐木町・末広エリアで12件、金屋町エリアで1件、坂下町エリアで2件、駅南エリアで3件、その他エリアで2件であり、飲食・カフェが14件、物販が3件、その他3件といった出店があった。
事業の今後について	引き続き制度の周知や関連団体との連携を行うことで開業支援の活用を図っていく。

イ. リノベーションまちづくり事業による波及効果

○リノベーションまちづくり事業【再掲】（高岡市、中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
実施主体	高岡市、中心市街地活性化協議会
事業概要	御旅屋人マーケットを始めとした、新しい使い方による「街のコンテンツ」を生み出すことにより、来街機会と賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和4年度） 中心市街地活性化ソフト事業（令和5年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（リノベーションまちづくり事業による波及効果） 事業目標値：+5件 最新値：+2件（賑わい集積開業等支援事業と重複）

	達成状況：未達成 令和7年度までに山町筋エリアで1店、高の宮通りで1店と御旅屋人マーケットの出店者による中心市街地エリアでの開業成果があった。
事業の今後について	商店街での定期的なマーケット開催により、中心商店街での回遊の促進、さらにはマーケットの出店者や客がアーケード内での実店舗とその顧客となるよう誘導する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗しており、目標を1年前倒しで達成している。

起業希望者がTASUに相談し、事業計画の作成等の伴走支援を受けながら各種補助制度を活用し、中心市街地での開業に繋げる流れが根付いてきている。その中には、御旅屋人マーケットに出店した店舗が中心市街地エリアで開業したケースもあり、事業間の連携による成果が着実に始めている。

令和6年度からは、遊休不動産をリノベーションし借り手とマッチングする事業者への支援制度を新たに開始しており、令和8年度には、空き家をリノベーションした宿泊施設が開業予定である。引き続き、まちなかの空き物件の解消を促進し、エリア全体の価値向上を図っていく。